

Japanese Unexamined Utility Model Publication No. 58-184352
Published on December 8, 1983

Title

Auxiliary room mirror for automotive

Summary

In an auxiliary room mirror where fixed downward receivers 3 protruding rearwards from a mirror frame 2 which is provided with a mirror 1 on a front side thereof are disposed on upper left and right sides of the mirror frame 2, movable upward receivers 4 facing the fixed downward receivers 3 are disposed on lower left and right sides of the mirror frame 2, and the movable upward receivers 4 are urged to move resiliently to the fixed upward receivers 3 sides by spring means, the spring means winds a bar spring 5 so that a center part of the bar spring 5 has a spring pressure, hangs the thus formed wounded portion 5a around a spring reception shaft 6 protrudingly disposed on a part of the mirror frame between the left and right receivers, and engages both end spring rod portions 5b of the bar spring 5 in the left and right movable receivers 4, respectively, to thereby urge the movable receivers 4 to resiliently move to the fixed receivers 3 sides.

公開実用 昭和 58- 184352

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 實用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭58-184352

5: Int. CL.³
B 60 R 1/04
G 02 B 5/08

識別記号

府内整理番号

7443-3D
7036-2H

⑫ 公開 昭和58年(1983)12月 8 日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑬ 自動車用補助ルームミラー

東京都新宿区領町3番地株式会
社カーメイト内

⑭ 実 願 昭57-82515

⑮ 出 願 人 株式会社カーメイト

⑯ 出 願 昭57(1982)6月2日

東京都新宿区領町3番地

⑰ 参 考 案 者 小沢美徳

⑱ 代 理 人 弁理士 佐野義雄

明細書

1 考案の名称 自動車用補助ルームミラー

2 實用新案登録請求の範囲

ミラーを張設した偏平横長状鏡枠の上辺左右側に鏡枠の後方に突出する下向きの固定掛額を且下辺左右側に上記固定掛額に対向する上向きの可動掛額を夫々設け、可動掛額をバネ手段により上記固定掛額側に弾撃移動付勢するようとした補助ルームミラーにおいて、上記バネ手段が、ノ本の棒ばねの中央部を巻回してこの巻回部を左右掛額間の鏡枠部分に突設したバネ受軸に遊挿させ、棒ばねの両端バネ杆部を上記左右の可動掛額に夫々保合したことを特徴として成る自動車用補助ルームミラー。

3 考案の詳細な説明

本考案は、自動車車内の既設ルームミラーに装着使用する補助ルームミラーの特に既設ルームミラーの上、下辺を弾性的に挿合させるための掛類のバネ手段の改良に関する。

先ず図面に就いて実施例の詳細を述べる。

正面側にミラー(1)を張設した鏡枠(2)の上辺左右側に鏡枠(2)の後方に突出する下向きの固定掛類(3)を、且下辺左右側に上記固定掛類(3)に対向する上向きの可動掛類(4)を夫々設け、この可動掛類(4)をバネ手段により上記固定掛類(3)側に弾撃移動付勢するようとした補助ルームミラーにおいて、上記バネ手段が、1本の棒ばね(5)の中央部をバネ圧を有するよう巻回してこの巻回部(5a)を左右の掛類間の鏡枠部分に突設したバネ受軸(6)に遊撃させ、棒ばね(5)の両端バネ軸部(5b)を上記左右の可動掛類

(4)に夫々係合させ、もつて該可動掛頭(4)を固定掛頭(3)側に弾簧移動付勢したものである。

尚、上記可動掛頭(4)は本例では作動板(4a)に取付けられ、この作動板(4a)はミラー(1)と対向する鏡枠(2)の内側壁面にこの壁面に設けたガイドピン(1a)と作動板(4a)の長孔(4b)とを係合させて上下滑動可能に沿捲され、そして該作動板(4a)の上端にバネ掛部(4c)を屈折形成してこのバネ掛部(4c)に上記棒ばね(5)のバネ杆部(5b)がスライド可能に係合されている。又作動板(4a)の上端は鏡枠(1)に設けた上昇規制用ストップバー(1b)を臨ませてある。

よつて以上のように構成された補助ルームミラ-
-Aを既設ルームミラ-Bに取付けるには可動掛頭(4)と固定掛頭(3)との間に既設ルームミラ-Bの上下辺を棒ばね力に抗して圧力的に挟合せること

とにより補助ルームミラーAは既設ルームミラーBに装着保持されるものである。

ところで、従来のこの種補助ルームミラーのバネ手段は左右の可動掛軸にバネを個々に掛ける手段が採られていたため、例えば図のような両側が細巾となる変形既設ルームミラーBに補助ルームミラーAを必要上一侧寄りに偏して取付けた場合、可動掛軸(4)の片方が強く、(図で左方)他方が弱い挾合力となるつまり左右のバネ圧が均一とならず、そのため補助ルームミラーが自動車走行中の振動でズレると云う問題を生じた。

そこで、この考案では補助ルームミラーがどのような接着状態でも常に左右のバネ圧が均等となるように工夫したもので、上述のようにバネ手段として、1本の棒ばねの中央部を巻回し、この巻

回部 (5a)を左右の掛顎間の鏡枠部分に突設したバネ受軸(6)に遊撃させ、棒ばねの両端バネ杆部 (5b)を左右の可動掛顎に夫々係合させたので、オキ図の例で補助ルームミラー A を変形既設ルームミラー B の一侧寄りに装着する場合、左右の可動掛顎(4)を付勢するのは共通ノ本のはねであることゝ。このはねの中心がバネ受軸(6)にフリーに遊撃されているため左右のバネ杆部 (5b)がどのように揺んでも棒ばねの全体圧は常に均等關係を保ち、従つて左右掛顎が確実に既設ルームミラーの上下辺を挿合捕捉し、もつて自動車走行中の振動などによつて生じ易い補助ルームミラーのブレをなくすことことができたものである。

併せて、部品点数も少なくて済むなど従来のこの種補助ルームミラーにては望み得ない秀れた実

用上の効果を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

オ 1 図は一部切欠正面図、オ 2 図は全上側断面図、オ 3 図は背面図、オ 4 図は説明図である。

(1) ... ミラー、(2) ... 鏡枠、(3) ... 固定掛軸、
(4) ... 可動掛軸、(5) ... 檻ばね、(6) ... バネ受軸、
(sa) ... 卷回部、(sb) ... 檻ばねの両端バネ杆部。

実用新案登録出願人

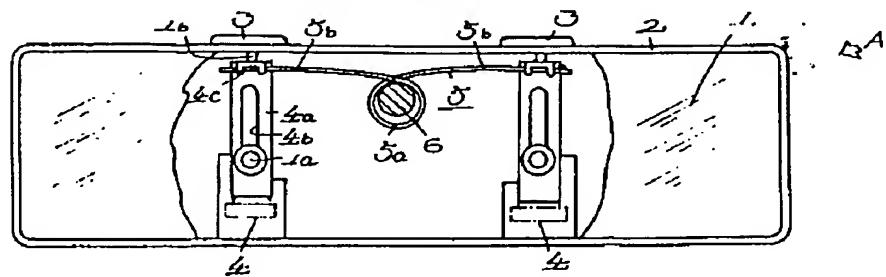
株式会社 カーメイト

代理人

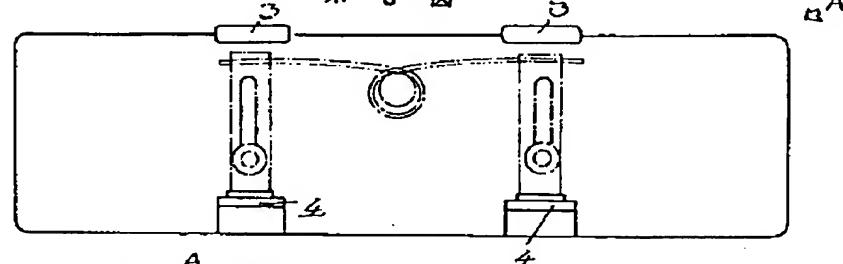
佐野義



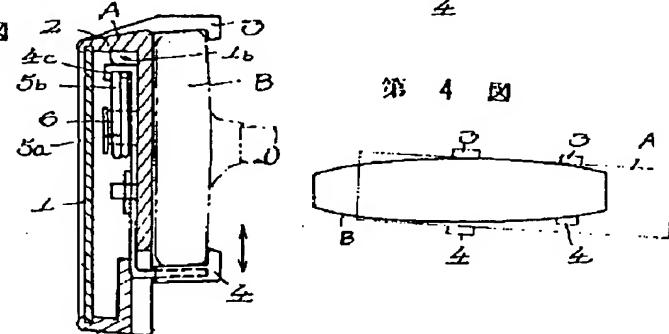
第 1 図



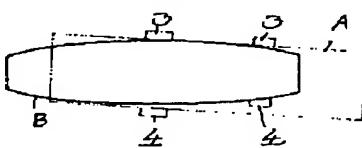
第 3 図



第 2 図



第 4 図



525

实用新案登録出願人 東九会社カーナイフ
代理 人 佐野義雄